

通学で使うバスの運行状況が一目でわかる電子掲示板
を自作した樋口さん(京都市山科区・京都橘大)



バス情報一目「掲示板」好評

京都橘大生手作り

大学への通学に欠かせないバスの運行状況を一目で確認できる電子掲示板を、京都橘大(京都市山科区)の学生が手作りした。キャンパス中央にある建物に設置され、学生や教職員がバスに遅延が出ていないかを確認するなど、キャンパスライフの利便性向上に役立っている。

電子掲示板は工学部3年の樋口雅裕さん(20)が手がけた。京都橘大の最寄り駅は市営地下鉄柳辻駅で、JRなども通る山科駅から京阪バスを利用する学生も多い。昨夏、友人から「バスなどの公共交通機関に遅れが出ていないか、可視化する仕組みを作ってもらえないか」と頼まれたのを機に、持ち前のプログラミング

友人の依頼きっかけ、学内設置 独学プログラミング活用

技術を生かして装置を作り出した。自作したプログラムは、京阪バスなどの公開データにアクセスして運行情報を読み取る。バスの行き先と路線名、次の発車時刻、運行状況を自動で整理して「山科駅方面の26A、14時18分発は通常運行」などと、テレビサイズのモニターに表示。利用の多いJR線や市営地下鉄東西線についても遅延がないかを示す。

幼い頃からものづくりが好きだった樋口さんは子どもの頃にプログラミングスクールに体験参加して魅力を感じたという。その後は独学でプログラミングの技術を高めていき、京都成章高時代は文化祭に合作して照明と音楽が連動する装置を開発した。大学1年時には高校時代のアイデアを発展させてハンドベルを自動演奏するシステムを作り、学内

外の注目を集めた。

各種の装置を作る時は、学生の利用できる構内のラボにこもり、3Dプリンターを駆使して必要なパーツを自作する。夜遅くまで熱心に製作する姿に驚いた教員がサポートも始めた。「学生と教員、職員の距離が近く、やりたいことができそうだな」と思い、この大学を選んだ。良いアドバンスを受けることができ、自分にとって充実した環境」と語る。

電子掲示板は雨の日などに利用が多く、友人からは「思っていたものが形になった」と好評だという。樋口さんは「次の目標は、大学の運行するシャトルバスの状況をGPS(衛星利用測位システム)などを使って可視化する仕組みを作りたい。誰かの役に立つものづくりを将来的にも続けていきたい」と力を込める。

(川辺智大)